

日時：令和4年3月25日（金）13：30～15：00

場所：県庁4階大会議室

議事：（1）富山県成長戦略について

（2）富山県女性活躍推進戦略について

（3）男女共同参画社会に関する意識調査結果について

（4）富山県民男女共同参画計画（第4次）の改定について

**【委員からの主な発言】** 以下のとおり

（委員）

- ・計画の改定においては、LGBTQにも重点をおくことが必要。
- ・「男女」（男性が前で女性が後）ではなく「人と人」として考えることができれば、女性がもっと前に出ることができるのではないかな。

（委員）

- ・民間企業（特に零細企業など小さな組織）における男女共同参画の取り組みをどのように進めるかが課題。公的機関や教育現場など取り組みやすいところからスタートし地道に広めていけばよい。
- ・富山県の人口流出の原因の一つには、男女平等ではないと感じさせるような息苦しい空気感が家庭、職場、地域などにあるのではないかな。

（委員）

- ・製造業は男性管理職が多く、女性は10%ほどしかいないため、女性管理職を30%にするのは到底無理だと言われている。固定的役割意識を持つ男性もみられる。
- ・女性トイレと男性トイレのおむつ交換台設置状況を見ても差を感じる。
- ・教育現場でも、男女別名簿が作成されていたり、男女で色分けをしたり、未だに固定的な性差を意識している部分がある。今年から高校入学願書に性別欄がなくなったが、そういった部分から変わっていくとよいと思う。

（委員）

- ・企業における管理職や地域における役員などを断ることは、経験や勉強の機会を逃すことになる。会議や研修など女性が自信をつけられる場が増えるとよい。

（委員）

- ・男女共同参画の取組みとして、企業との連携が重要。経営者は当事者意識を持ち、経営課題として取り組むことが必要。最近社員エンゲージメントを経営の指標に盛り込む会社が増えている。例えば、県が企業に対してエンゲージメント調査の実施を推進し、経営者が社内の現状・課題や社員の生の声を知ることによって当事者意識を持てるようになれば効果があるのではないかな。

(委員)

- ・「女性会」など男女別の会合に違和感がある。男女問わず集まれば多方面にわたって活発な議論ができると思うので、社会の意識が変わっていくとよい。

(委員)

- ・調査結果やこれまでの施策の効果を検証したうえで計画の見直ししていただけたらと思う。

(委員)

- ・企業と女性の意識にギャップがあるというアンケート結果を見て、もったいないと感じる。上司が背中を押すことによって、管理職になることをためらう女性が能力を発揮できるようにすることが大切。
- ・男性の育休や女性のキャリアアップについて、周囲の応援や理解を得るには日ごろからのコミュニケーションが重要。

(委員)

- ・セクシャリティに関するハラスメント防止のマニュアル作成、専門相談窓口の設置、性別欄の見直し、公営住宅における同性パートナー入居への配慮などの施策を具体的に盛り込んでいくことが必要。
- ・自治体主催で性的マイノリティの方を対象とした居場所づくりや当事者の交流の場を設けることができないか検討いただきたい。自治体主催だと安心して参加できる面がある。
- ・現計画中に「性に関する指導については、学習指導要領に則る」とあるが、学習指導要領に記載があるかないかに拘わらず取組みを進めていただきたい。
- ・男女間の暴力の根絶については、同性間の暴力や支配にも目を向けることが必要。
- ・女性活躍推進戦略中の「若い女性が少なくなると、結婚できない男性が増え、少子化の進行が加速する」という記載が気になった。(女性のためではなく、女性と結婚したい男性のためと読み、女性の幸せが目的となっているとは読み取りづらい。)女性の多様性を認めるということであれば、異性との結婚をしない人、子供を持たない人や持てない人も尊重すべき。

(委員)

- ・富山・石川経営者協会の女性リーダー育成セミナーにおけるアンケート結果によると、管理職になりたがらない女性が多いのは、男性上司の働き方を目の当たりにし、「あんな風には働けない」と感じる大きな原因。
- ・女性活躍に向けクリアすべき課題や解決策は、この度の推進戦略に明確に示されている。それを進めるための具体的な方法として、①チーフオフィサー及びイクボス同盟とやま加盟企業のアップデートをして企業に働きかけること、②先進的な大企業の取組や専門家などの講演を聴いてもらい知見を深めることと、身近なロールモデルを参考にして現実に取り組みそうなことを模索できる機会を提供すること、すなわち、啓発と啓蒙(普及・促進)を分けて、それぞれに適った取組を行うこと、③補助金のような一過性のものではなく、積み重ねに対するインセンティブを企業へ提供すること。以上3つを提案する。

(委員)

- ・政治分野への女性の参画については、行政が目標を設定するのは難しい面もあるかもしれないが、意識調査では県民の要望が高いことから積極的に進めていただきたい。富山県は全国的にみると政治分野への女性参画割合が低い。政治分野で女性参画割合が高ければ、多様な民意を吸い上げることができる地域であることを示す指標になる。

(委員)

- ・女性が昇進を望まない理由には、自分を過小評価しすぎているという背景がある。挑戦的な仕事・責任が伴う仕事をさせてもらえないことなどが若い時から積み重なり、自信を持つ機会を失ってしまっているとすれば、企業に責任がある。目先のことだけではなく、将来を見据えた息の長い取り組みが必要。

(委員)

- ・女性の多様な生き方を尊重することが大切。いずれはわざわざ「女性」と掲げるのではなく、「すべての人」という表記になっていくことが望ましい。
- ・子供たちにアンコンシャス・バイアスを持たせないためには、大人が家庭や学校で性別に拘わらず協力している姿をみせることが大切。
- ・男女共同参画の多岐にわたる内容を分かりやすく整理し、男女共同参画推進員の役割を明確にしてもらいたい。また、本審議会で出た意見をしっかりと落とし込んでほしい。

(委員)

- ・認識違いや働き方の固定化など企業に多くの課題があることが、女性活躍を制限し人口流出につながる原因の1つではないかと思う。
- ・日々の生活の中での家事、育児、介護における女性の負担を軽減し、男女平等にすることが重要である。仕事と育児・介護の両立を可能にする育児介護休業法の改正（R4.4～）をまずは浸透させ、進めることが変化の第一歩となる。

(委員)

- ・富山県で女性管理職比率が低い理由のひとつは産業構造にある。労働時間が長く女性管理職比率が低い第二次産業が多いので、第三次産業（低付加価値な第三次産業ではなく、ICT関連産業などの高付加価値な第三次産業）で働く機会を県内で増やしていくことが大切。（企業の誘致、育成、サテライトオフィスの誘致など）
- ・富山県で盛んな製造業において管理職になるためには、理工系の学歴で専門知識をつけることが役立つが、女性は理工系に進む比率が低い。高校などで女子も物理を選択する（できる）よう働きかけることが必要。教育は当該審議会の範囲外かもしれないが、他の審議会とも連携して進めてほしい。
- ・働く場所や時間を柔軟にする制度づくりは大切なこと。
- ・訓練機会の男女差を生み出すような、企業でのコース別採用をなくすこと、短時間勤務を男女関係なく取得できるようにすることが女性管理職比率増につながるのではないかと。
- ・県全体の目標指標は、とてもアンビシャスでよいが、男性の育休が2日だけとか、女性管理職だけでなく部下がいない人が増えるなど形だけにならないように留意する必要がある。

(委員)

- ・医師は専門職であり男女で仕事の内容に差はあまりない。結婚や出産後もほとんどの若手女性医師は仕事との両立をしているが、チャンスがあっても尻込みしてしまい、責任あるポジションに就くことが少ない。今後はチャンスを生かして柔軟に取り組んでいてもらいたい。これまでのリーダーと違う形であってもよいと思うので、周囲と話し合いながらサポートを受けられるようにすることで責任あるポジションに就く女性が増えるとよいと思う。
- ・時代に即し、新型コロナウイルスや防災対策（被災した際の避難所の設営など）に関して、重要なポストに女性を登用していくことが重要なので、計画の改定にあたっては、留意いただきたい。

(富山県女性財団)

- ・アンコンシャス・バイアスを払拭していくことができれば、富山県の風土が明るくなっていくと思う。
- ・女性活躍推進戦略では、指標が明確にされており、女性財団も県とともにアプローチしやすい。ただし、働く女性に特化しているところがあるので、それ以外の部分については来年度改定する計画でフォローしていただきたい。
- ・計画の改定については、再就職など人生100年時代の働き方や若年層へのアプローチの仕方について盛り込まれることを期待している。
- ・「子育て20年のうちの育休1か月や1週間など大したことないではないか」というような視点を変えた考え方ができることによって幸せ人口が増えるとよい。
- ・計画の改定にあたっては、施策へのアプローチの仕方を県にご指導いただき、女性財団も取り組んでまいりたい。

(会長)

- ・誰かの犠牲の上に成り立つ幸せはありえないので、「男性」「女性」関係なく、人と人が互いに支えあい、成長していけるような社会になればよい。
- ・学びたいことが学べる富山県、生きがいをもって働ける富山県、子供が育てられる富山県、幸せに暮らせる富山県、楽しめる富山県をどのようにつくっていけるかを考えていきたい。